



※ 独立行政法人国民生活センター発表情報から内容を抜粋し自転車マイチェック推進会が整理したものです。

三輪自転車の走行特性に注意

－ 高齢者が転倒し骨折した事例も －

従来より、大人向けの三輪自転車が販売されています。三輪自転車は後2輪のものが主流であり、近年では電動アシスト機能を搭載したものも販売されています。PI0-NETには、2013年度以降の約6年間に三輪自転車に関する相談は138件寄せられており、契約当事者年齢の割合をみると、70歳以上が全体の約7割を占めており、高齢者が転倒し骨折したという事例もみられました。三輪自転車は二輪自転車より安定性があるように思われがちですが、走行中の挙動は二輪自転車とは異なり、カーブ走行や左右に傾斜した路面を走行する場合には、三輪自転車であっても転倒する危険性があるため、運転には注意が必要です。

三輪自転車のスイング機構について

- 後2輪の三輪自転車の多くは、車体前部をスイングさせる（左右に傾ける）ことができるスイング機構を備えています。
- スイング機構にはバネが内蔵されており、傾けた車体を垂直状態に戻す復元力が働きます。
- スイングさせて走行すると、二輪自転車と同様にカーブで車体ごと体を傾けることができるため、二輪自転車に乗れる人にとっては違和感なく運転できるとされています。他方、常にバランスを取りながら走行しなければならないので、二輪自転車に乗れない人がすぐに運転するのは困難だと考えられます。
- スイング機構を備えたものの中には、付属の固定金具を取り付けることにより垂直状態に固定できるものや、ハンドルバーに装着されているスイング切替レバーを操作することにより垂直状態に固定できるものがあります。
- スイング機構を固定して走行すると、バランスを取らなくても車体が垂直状態を保つため、二輪自転車に乗れない人でも運転できる場合があります。

テスト結果

- 平たんな路面上で直線走行する場合

- スイングする場合、二輪自転車に乗り慣れている人であれば安定して直線走行することができました。
- スイング機構を固定していると、特にバランスを取らなくても安定して直線走行することができました。

■ 平たんな路面上でカーブ走行する場合

- スイングする場合、二輪自転車に乗り慣れている人であれば安定してカーブ走行することができました。
- スイング機構を固定していると、カーブ走行の速度が速い場合は片輪が浮き転倒する危険性がありました。

■ 平たんな路面から傾斜面に進入する場合

- スイングする場合、二輪自転車に乗り慣れている人であれば、安定して傾斜面に進入することができました。
- スイング機構を固定していると、傾斜面に車体後部が進入した途端に車体全体が傾いて片輪が浮き転倒する危険性がありました。

■ 障害物を通過する場合

- スイングする場合、二輪自転車に乗り慣れている人であれば安定して障害物を通過することができました。
- スイング機構を固定していると、後車輪の片側が障害物に乗り上げた途端に車体全体が傾いて転倒する危険性がありました。

■ 後車輪への足の巻き込みについて

- 発進時に地面に着いた足を上げるタイミングが遅れると、後車輪にひかれる危険性がありました。

消費者へのアドバイス

- 三輪自転車に関する相談の約7割が70歳以上であるなど、高齢者の方の用途で購入している商品であると考えられます。三輪自転車の購入や使用を考えている場合は、今回のテスト結果を参考に**使用者の適応能力や道路環境を合わせて検討**してください。
- **三輪自転車は二輪自転車と走行特性が異なります**。三輪自転車を購入する際は、二輪自転車に乗れる人でも可能な限り事前に試乗し、購入後には**平たんな路面で十分に練習してから公道で使用**するようにしましょう。
- 後2輪の**スイング機構を固定**して走行すると、カーブ走行や傾斜、障害物等の路面状況により、**車体全体が傾いてバランスを崩し転倒する危険性があります**。スイング機構を固定して走行する際は、**必ず低速走行を心がけ、傾斜のある路面や凹凸のある路面では自転車から降り、押して歩きましょう**。